

令和元年6月11日現在

機関番号：32606

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26284116

研究課題名(和文) 中近世地中海史の発展的研究：グローバルな時代環境での広域的交流と全体構造

研究課題名(英文) The Developed Study of the Mediterranean History in the Middle Ages and in the Early Modern: the Wider Intercourse and its Total Structure in the Age of Globalization

研究代表者

亀長 洋子 (KAMANAGA ANZAI, YOKO)

学習院大学・文学部・教授

研究者番号：40317657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,600,000円

研究成果の概要(和文)：多文化が交錯する世界である中近世の地中海世界を、東洋史・西洋史の共同研究として再考した。中近世のグローバル化のなかで、アラブ、マグリブ、トルコのイスラーム諸勢力、ビザンツ、西洋カトリック諸勢力、ユダヤ教徒などが地中海世界の各地で政治、経済、宗教、社会の様々な面において対峙する様相を各研究者は個人研究として進め、その成果を海外研究者の協力も得つつ互いに共有した。それにより研究者たちは西洋史・東洋史のいずれにも偏らない視野を育くみ、一国史観を超えた歴史叙述を充実させた。その成果を含んだ研究報告書を作成し多くの研究者に配布し、また共同研究の成果を公開シンポジウムの形で広く人々に公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究を通じて、地中海という一体性を有する空間的世界を研究対象としつつも日本では研究交流の少ない西洋史と東洋史の研究者が互いの視点、互いの使用する史料や言語の情報を得つつ中立的な歴史叙述を行うことができるようになり、より視野の広い歴史叙述が可能になった。またこの地域が抱える宗教的背景やイデオロギーを生来のものとして有していない中立的な日本人研究者の研究は、この分野の国際的な研究発展にも大いに貢献できる。また宗教的衝突とその紛争解決、多元的な人々を統治する仕組み、グローバル化と商業、人の移動といったテーマは現代社会が抱えている問題にも通じており、それを考察する上での視座を提供する

研究成果の概要(英文)：The eleven members of this historical research project, that are composed of both the specialist of the occidental history and of the oriental history, reconsidered the wider intercourse and its total structure in the medieval and early modern Mediterranean history. With the collaboration with foreign historians, each scholar noticed the political, economic, religious, or social aspects that the Muslim in Arab, Maghreb, and Turk, the Byzantine, the Catholic, the Jews or other people in this area were confronting and facing each other in all the area in the Mediterranean in the age of globalization. Through this project the members shared the wider historical viewpoints without prejudice and could get high skill for the historiography beyond the frame of 'national history'. The members published a book including all the members' articles as the result of each research. And also they held a symposium in order to show the significant results of the research to many people.

研究分野：中世イタリア・地中海史

キーワード：地中海史 中近世史 イスラーム カトリック ビザンツ グローバリゼーション 異文化交流 多元的世界

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

F.ブローデルの大著『地中海』は、日本の歴史学界に多大なインパクトを与え、西洋史、イスラーム史の両分野でしばしば参照されるとともに、研究対象の広がりをもたらしてきた。とはいえ両分野でも、多くの場合は各国史、都市史、王朝史、地方史の枠組み内で研究されており、ブローデルが本来語ったような全体構造、社会環境を語る形で地域や文化圏を超えた地中海研究は、日本人研究者の手によって未だ十分には行われているとはいえない状況にある。

こうした問題意識に基づき、本研究の申請者(研究代表者:亀長洋子、研究分担者:堀井優、宮崎和夫、櫻井康人、佐藤健太郎、飯田巳貴、西村道也、高田良太、澤井一彰、黒田祐我、研究協力者:斎藤寛海)は、一国史・王朝史を超えた研究を目指す「拡大地中海史研究会」を組織し、2007年より既に計13回の例会を開催しており、その発展として科学研究費を申請し研究を続けることにした。

2. 研究の目的

中近世の地中海世界はビザンツ圏、西ヨーロッパ圏、イスラーム圏の諸事象が広域的に交流する場であり、西洋世界の多元的考察が可能な研究対象である。本研究はイスラーム史研究者の協力も得て他世界との関係の中で展開する西洋世界としての地中海史を再構成する。研究目的は二つある。一つは各研究者の専門地域で個別の史料・文献を調査し、成果を研究者間で共有し、地中海世界の全体構造に関する認識枠組みを再検討して西洋世界を再考することである。もう一つは多分野交流の代表的都市コンスタンティノープル(イスタンブル)文化圏の歴史を各専門領域から分析しその複合性を解明し、国内外でのシンポジウムで成果を披露することである。本研究により広域性と特定の焦点をもつ歴史叙述や、狭義の西洋史の枠組みを超えた西洋世界像が提供できる。

3. 研究の方法

5年間の研究期間中、中心となるのは、毎年2回学習院大学にて開催するのを基本としたメンバーによる研究会である。研究会では、メンバーの海外個人調査報告の成果等に基づく個別報告をめぐる討論をつうじて、中近世地中海世界の多元性に対する具体的な認識と理解を深め、全体的な枠組みを構想した。また3年目には、西洋史と東洋史の研究者が異なる視点を有することを前提とし、史跡を目の前にしての他分野の研究者の視点を認識し共有するために、海外共同調査を実施した。イスタンブルでのクーデター未遂の関係で、イスタンブル自体からイスタンブル文化圏に調査先を移してこの計画を実行した。4年目にはメンバーがパネリストとコメンテーターを務める形で国内シンポジウムを開催した。開催に際し、情報に接しにくい地方での開催を有意義と考え、東北学院大学にて実施した。またトルコ人の研究者を招聘し、イスタンブル内に残存する地中海人関係の史跡の情報提供とその関連での議論を行う研究会を開催し、現地の研究者と意見交換し、トルコ人研究者との交流および史資料調査等を通じ、この都市に内在する複合性を、各専門領域から多角的に検討する可能性の豊かさを大きくした。5年目にはメンバー全員が執筆した研究成果報告書を発行した。

4. 研究成果

毎回研究会でなされる情報交換、個別報告、共同調査においてメンバーの中ではぐくまれた複合的な視点に基づく情報は、各自の個別研究の中のさりげない表現の中に生かされている。紙幅の関係上、ここでは、成果報告書として刊行した冊子の内容から共同ならではの複合性を

有した成果を述べる。

黒田祐我「中世イベリア半島における「アブ・ノーマル」な主従関係」では共同研究の共通テーマの一つであった「広域的交流」という視角に属する成果として、キリスト教徒とムスリムとの間で見られる信仰や政治上の障壁をものともしない活発な動きが確認された。宮崎和夫「スペイン王権の異端審問のイタリアへの進出に関する覚え書き シチリア王国とナポリ王国を中心に、複合君主政の観点から」では、スペインによる南イタリア支配という複合君主体制下、宗教的な多元性の歴史を有するシチリアに異端審問制度という宗教的抑圧の制度を施行するにあたっての史的展開から、地中海世界の人々の宗教と国制との関係を論じた。佐藤健太郎は「チュニジアのモリスコ ～現地調査をふまえて」において、本科研で実施されたチュニジアでの調査結果を踏まえて、カトリック・スペインから追放されたモリスコ(イベリア半島にいたムスリム)が移住先のチュニジアでの足跡を探求した。高田良太「サレント地方の「コンスタンティノーブルの聖母」聖堂 ―ウジェントとトリカーゼの聖堂の献堂時期をめぐって―」は、メンバーとの共同調査において訪問したイタリア・プーリア州とアルバニアをその両岸に有するアドリア海での交流を通じ、ギリシア正教とカトリックの間での文化伝達や人々の移動を考察している。澤井一彰「現代アルバニアにおけるオスマン朝の残滓 2018年夏期調査報告」では、メンバーとの共同研究で訪問したアルバニアのなかに、オスマン的要素、カトリック的要素、アラビア語、トルコ語的要素、などを様々な建造物や表記や食事の習慣などに見出し、あまり知られていないこの国の多元性を我々に提供してくれた。その存在そのものが移動を伴う貨幣を対象に研究する西村道也は、「ビザンツ帝国の貨幣と博物館における展示：2016～2018年の海外調査より」において、本科研等で訪問した博物館における貨幣の調査結果から、展示のあり方なども含め、歴史的な貨幣の存在意義を考察している。齊藤寛海「紹介 Youval Rotman, *Les esclaves et l' esclavage : De la Méditerranée antique à la Méditerranée médiévale, VIe-XIe siècles*, Paris (Les Belles Lettres) 2004, 403 pp.」は、表題にある著作の紹介を通じ、著者が近年研究対象としている地中海世界の奴隷とは何かを、イタリア、ビザンツ、イスラーム圏といった空間のみならず、時に地中海をも超える視野をも含んで語る試みである。亀長洋子「ある史料に見る中世後期ロマニアのジェノヴァ人居留地の世界」は、ジェノヴァ本国政府、居留地にいるジェノヴァ人、ビザンツ、オスマン帝国の行動と意識を一つの資料から解き明かそうとした試みである。飯田巴貴「17・18世紀のオスマン帝国における繊維製品市場と服飾とヴェネツィアの繊維製品輸出」は、ヴェネツィア産の繊維製品に対し、輸入先のオスマン帝国の市場動向・消費傾向を論じたものである。堀井優「マムルーク朝末期エジプトのヨーロッパ人領事に関する規定」は、表題の規定を数多く長期にわたって紹介し、その中に見られる規範の変化を追いつつ、イスラーム圏のなかのヨーロッパ人のありかたを考察している。櫻井康人「十字軍国家とマムルーク朝による農村世界を巡る攻防」は、十字軍国家を舞台に、征服者側である西洋人が農村支配に乗り出した際の現地民との軋轢を扱った論考である。

いずれの論考も、一国史観を超え、複数の民族や宗教にまたがる要素を備えた論考であり、扱う分野も政治・行政・宗教・経済・社会と多岐にわたり、本研究の目的を十分に達した成果報告書となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 38 件)

1. 堀井優「近世オスマン帝国下のヴェネツィア領事網」『ヨーロッパ文化史研究』20、査読無、

2019、29-33

2. 高田良太「コンスタンティノープルのヴェネツィア人 13世紀のバイロと居留地」
『ヨーロッパ文化史研究』20、査読無、2019年、17-28
3. 西村道也「ビザンツ貨をめぐる模造と模倣：帝国の貨幣史をてがかりに」『ヨーロッパ文化史研究』20、査読無、2019年、3-16
4. 櫻井康人「ヨーロッパ商業都市と十字軍国家」『東北学院大学論集 歴史と文化(旧歴史学・地理学)』57、査読無、2018年、95-149
5. 澤井一彰「16世紀後半におけるイスタンブールの人口規模」『歴史学研究』977、査読有、2018年、55-66
6. Iida Miki, "Venetian silk Textiles and Fashion Trends in the Ottoman Empire during the Early Modern Period", *Mediterranean World*, 査読無、23, 2017, 191-200
7. 櫻井康人「十字軍研究動向 「十字軍・十字軍国家学会」刊『十字軍』の統計より」『西洋中世研究』9、査読有、2017年、149-162
8. 高田良太「封地分配の行方 中世後期クレタにおけるヴェネツィア人入植政策とギリシア人の反応」『歴史学研究』946、査読無、2016年、23-32
9. Kamenaga-Anzai Yoko, "An aspect of the Genoese Network and its Colonial World in the Middle Ages", *Mediterranean World*, 査読無、22, 2015, 137-145
10. 黒田祐我「カスティージャとグラナダのはざまで揺れ動くひとびと 「境域」民のふるまい」『歴史学研究』924、査読無、2014年、147 - 155
11. 櫻井康人「フランクに使えた現地人たち 十字軍国家の構造に関する一考察」
『東北学院大学論集 歴史と文化(旧歴史学・地理学)』54、査読無、2015年1 - 46

〔学会発表〕(計41件)

1. Iida Miki, "The Silk textile Industry of the Venetian Mainland and the fairs of Adriatic Coast during the Early Modern Period", 一橋大学地中海研究会・ウルビーノ大学(イタリア)ワークショップ(国際学会)、2018
2. Sato Kentaro, "Maghribi Tradition of knowledge in Mamluk Cairo: An Analysis of Isnad of Ibn Khaldun" Second German-Japanese Workshop on Mamlukology, Second German-Japanese Workshop on Mamlukology, 2018
3. Sato Kentaro, "Ismad of Ibn Khaldun: A Scholar in Cairo with Maghribi Tradition of Knowledge", Fifth World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES)、2018
4. 高田良太、堀井優、西村道也(パネリスト)、澤井一彰(コメンテーター)「中近世の東地中海世界における諸民族の混交」東北学院大学ヨーロッパ文化総合研究所公開講演会、2017年、東北学院大学、
5. 西村道也「8-12世紀のビザンツ帝国の貨幣と財政 『新旧税計算法』と10-11世紀の金貨操作を中心に」社会経済史学会九州部会・経営史学会西日本部会1月例会、2017年、福岡大学
6. Kuroda Yuga, "La vida y diplomacia en la frontera castellano-granadina", III Coloquio Internacional "La Edad Media vista desde otros horizontes", 2017, 東京外国語大学
7. 宮崎和夫「スペイン王権地価のアメリカ 『副王領』とイタリア諸王国」スペイン史学会(招待講演)2016年、首都大学東京
8. Kamenaga-Anzai Yoko, "The action and the Atmosphere of the Residents in Pera in the

Crisis just after the Fall of Constantinople (1453) ” Workshop Co-organized by the Mediterranean Studies Group and Ionian University, Department of History, 2016.3.28, イオニア大学(ギリシア)

9. Sawai Kazuaki, “The deluge of Istanbul in 1563: a flood without a big river” *Cities and disasters: urban adaptability and resilience in history*, 2016, Institute of Historical Research, London University

〔図書〕(計 42 件)

1. 研究代表者 亀長洋子(科研メンバー全員が執筆)『中近世地中海史の発展的研究 グローバルな時代環境での広域的交流と全体構造』学習院大学文学部史学科 亀長洋子研究室、2019 年

2. 櫻井康人『図説 十字軍』河出書房新社、2019 年、140 頁

3. 宮崎和夫(立石博高編著)『スペイン帝国と複合君主政(インディアス諸王国 スペイン領アメリカは「植民地」だったか?)』昭和堂、2018 年、251(117-151)

4. 亀長洋子(川分圭子、玉木俊明編)『商業と異文化の接触: 中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開(コンスタンティノープル陥落直後における居留民の行動と心性 中世ジェノヴァ人公証人登記簿の分析より)』吉田書店、2017 年、897(539-569)

5. 宮崎和夫『前掲書(スペイン・ハプスブルク朝治下のカスティーリャ王国のマグリブ交易)』897(633-659)

6. 澤井一彰『前掲書(1586 年のアマスラ近海の高難事故と黒海における商業活動)』897(663-688)

7. 堀井優『前掲書(一六世紀前半・一七世紀前半オスマン帝国 ヴェネツィア間条約規範の構造)』897(689-717)

8. Horii Yutaka (K. Fukasawa, J. Kaplan eds,) ” Religious minorities and foreigners in Ottoman Cairo ”, *Religious Interactions in Europe and the Mediterranean World: Coexistence and Dialogue from the Twelfth to the Twentieth centuries*, Routledge, 2017, 343(221-230)

9. 黒田祐我『レコンキスタの実像 中世後期カスティーリャ・グラナダ間における戦争と平和』刀水書房、2016 年、436 頁

10. 飯田巳貴(越村勲編)『16・17 世紀の海商・海賊 アドリア海のウスコクと東シナ海の倭寇(16、17 世紀のヴェネツィアとアドリア海の海外領土 経済的側面からの考察)』彩流社、2016 年、245(55-70)

11. 佐藤健太郎(神崎忠昭編)『断絶と新生中近世ヨーロッパとイスラームの信仰・思想・統治(17 世紀チュニジアのモリスコ)』慶応義塾大学教育文化研究所、2016 年、263(233-260)

12. 澤井一彰『オスマン朝の食糧危機と穀物供給 15 世紀後半の東地中海世界』山川出版社、2015 年、303 頁

13. 高田良太(服部良久編)『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史 紛争と秩序のタペストリー(アレクシオスは平和の仲介者か 1299 年前後のクレタにおけるヴェネツィア支配とギリシア人)』ミネルヴァ書房、2015 年、562(488-512)

14. 櫻井康人『前掲書(家の中にいる敵 十字軍国家におけるフランク人の農村支配)』562(513-536)

6 . 研究組織

(1) 研究分担者

飯田 巳貴	Iida Miki	専修大学商学部准教授	00553687
西村 道也	Nishimura Michiya	福岡大学経済学部講師	10599814
宮崎 和夫	Miyazaki Kazuo	筑波大学人文社会系准教授	40251318
黒田 祐我	Kuroda Yuga	神奈川大学外国語学部准教授	50581823
櫻井 康人	Sakurai Yasuto	東北学院大学文学部教授	60382652
堀井 優	Horii Yutaka	同志社大学文学部教授	70399161
佐藤 健太郎	Sato Kentaro	北海道大学文学研究科准教授	80434372
高田 良太	Takada Ryota	駒沢大学文学部准教授	80632067
澤井 一彰	Sawai Kazuaki	関西大学文学部教授	80635855

(2) 研究協力者

齋藤 寛海	Saito Hiromi	信州大学名誉教授	
-------	--------------	----------	--

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。